

宗像市市民参画等推進審議会会議録（審議会資料）

日 時	平成26年2月25日（火）10:00～11:35
場 所	宗像市役所 202会議室
委 員	☐ 井上豊久 、 ☒ 志岐宏美 、 ☒ 辻洋子 、 ☒ 東博子 、 ☒ 前田誠 、 ☒ 松永年生 、 ☒ 南博 、 ☐ 宮崎弘子 、 ☒ 吉田晴希 （五十音順、敬称略）
事務局	コミュニティ・協働推進課；古川、村上、吉永、福島、合島 むなかた市民フォーラム；梶栗、木村

1. 会長あいさつ

協議事項と進行内容の確認

2. 協議事項

（1）市民活動推進プランアクションプランについて

市民活動推進プランのアクションプランを作成した。プランの中で示されている内容を、市の事業として実施していく際の実行計画に位置づけられる。

市で取り組んでいる事業を掲載した全事業一覧及びプラン策定時のヒアリングから、対象となる事業を抽出している。その事業ごとに今年度の計画まで記載している。

今後、各事業の実施結果を数値等を挙げながら達成度も含めて記載、それを踏まえて来年度事業を検討し、目標に近づけて行く。このような形で進行管理をしていく、ということで提案させていただく。

《質疑等》

●協働化提案制度の対象となっているもので、市の法定業務は含まれていないのか。

⇒協働化提案に乗ったものに限らず、全事業から対象になると想定される事業を抽出している。

例えば、住民票発行業務をコミュニティに委託している、など。

●業務件数は何件か。

⇒総数は222件。課ごとや項目ごとの件数は現在集計中。全事業一覧で公開している事務事業が450件程度。

●平成25年度計画で、現在は進んでいるのか。

⇒この内容で現在進行中。事業実績については、実施回数など数値等で具体的に示すように考えている。

●開始年度で、具体的な年度と着手済みとがあるが、違いは何か。

⇒かなり以前から実施されているものは着手済みとし、策定前2、3年程度であれば、具体的な数字を記載している。

●シートのまとめ方は判りやすくなっていると思う。実績は数値データを中心ということなので、客観的に判りやすくなるだろう。達成度の評価は、経営企画課が行っている事務事業評価と同じとするのか、別の基準を用いるのか。

⇒尺度の基準としては事務事業評価と同様になると思うが、経営企画課の分は事業全体の達成度が対象となっている。一方当プランはどれだけ市民参画が進んだのかということが評価の対象となるので、視点は違ってくると思われる。

なお、初めての取り組みでもあるので、進行管理を行っていく中で見えてくるものもあるのではないかと考えている。

●達成度の評価を行うのは原課か。コミュニティ協働推進課でもなく外部の評価委員会でもなく、各担当課が自主的に評価を行うのか。

⇒担当課でシートに入力し、その後ヒアリングを行いながら精査していく、ということになると考えている。

●達成度の見極めには、コミュニティ・協働推進課の評価が入ることになるのか。

⇒現段階では入らない。ヒアリングをした上で、達成度については必要であれば修正したりということになり、そのような形で評価を経たうえでシートの完成となる。

外部の目、というのは必要と思う。

●ただし、現実的にこれだけの量があると難しいと思う。

⇒作業を進めながら考えていきたい。

●市民参画だけの評価ではなく、内容についての評価は次年度以降に行うということになるのか。

⇒例えば、計画では実施するはずだったが出来ていない、頓挫した、などについてはその原因を探ることになる。事業自体の評価は、先に述べたように経営企画課のシステムに乗ることになる。その中で、市民参画や協働がどれだけ進んだのか、という評価になってこようかと思う。

●担当課では、参画や協働という尺度で評価される、達成度を計られるということを考えていない場合もあるだろう。そういう意味では、各課にも汗を流してほしい。一つのトレーニングにもなるだろう。一定のモノサシをこちらから提示して、その尺度が必ずありますよと、ということを担当課に投げ込むという手もあるのではないかと。協働の推進という立場からのモノサシを予め作っておいて、これもキチンと加味して担当課での達成度の評価をやってくださいという手順があると良いと思う。

⇒事務局も漏らしている事業もあるかもしれない。協働の視点を持ちながら、ヒアリング等を通じて、他にも対象事業がないかということ、研修等も踏まえながら、意識を高めていきたい。

アクションプランを作るうえで、現実的に業務が増えるということなので、負担感を感じられているのは事実だが、それを通じて協働の視点で業務に取り組むという意識付けにはなると期待しているところ。

●推進プランの中ではオール市役所体制ということ謳っているのか、かつ、この図にもあるようにそれぞれの個別プランを串刺しにする形での推進プランですよと明示し

ている訳だから、具体的な達成度の評価の作業の中で、具体的にそれをやっていただければ良いが、と思う。

●協働のまちづくり推進本部には諮っているのか。

⇒順番が前後しているが、2月27日に提案することになっている。審議会の意見を踏まえたうえで提案したかった。

●大変だと思うが、しっかり取り組んでいただきたい。

(2) 第2次コミュニティ基本構想・基本計画骨子案について

第2次コミュニティ基本構想・基本計画について、各コミュニティの事務局長により構成された策定部会において検討を進めてきた。今般、骨子案を取りまとめたので報告する。

平成26年度中に策定し、平成27年度から施行。平成26年度に審議会に諮問し、協議いただくことになる。

資料に基づいて説明。

第1次コミュニティ基本計画の内容について検証を行い、第2次で検討すべき課題をとりまとめ、骨子案を策定した。骨子案について、「大分類」「小分類」が目次にあたる。「内容」は、今後検討するための目安となるもので、決定稿ではない。

第1次では、市全体としてのコミュニティづくりの内容が多かった。第2次では、それぞれの地域の特性に合わせた対応が必要となり、連携と協働をキーワードに取り組む。もう一つ注目されているのが、安全安心のまちづくりのために地域が果たすべき役割が問われている。これが、第1次から大きく変わってきたところ。

《質疑等》

●骨子案については、コミュニティ会長会には諮ったのか。

⇒2月の会長会で報告し協議いただいた。その際に、各地区のまちづくり計画を基本構想に合わせて改定すべきか、との質問があった。そのような必要はなく、逆に基本構想は、各地区のまちづくり計画を推進するためのものでもあることを認識いただいた。

●検証会議にも出席したが、合併をとおして地域特性の違いが明らかだった。当時の事務局長や会長も地域に対する愛着が強く、地域の人材をいかに活かすか、ということ等を考えておられた。どの地域もがんばっておられたという印象を持った。それを市がさらにバックアップする体制を考えてほしい。

●資料編について提案を。協働や先進的な取り組みの事例が多くあるので、それを分かりやすく集めて、資料編の中に入れ込んでみてはどうか。

●会長と事務局長合同研修では、各地区の取り組み紹介を行った。地域の特性をよく表現したものだった。

●ユリックスでは、コミュニティ対抗のパットゴルフ大会を行った。

⇒成果が目に見える資料は必要だろう。ただし、それなりの作業をお願いすることになる。

市の広報紙でも、コミュニティ活動の情報提供も考えたい。

●冊子だけでなく、映像での資料も検討していただきたい。

●判りやすくまとめられていると思う。表現の問題になるが「行政機能の充実・強化」では、若干意味がとりづらいのではないかと、思う。全体的な方向性としては、コミュニティや市民活動でまちづくりを行おうというもの。その中であえて行政機能の充実・強化という大きな視点で位置づけると、意味が分かりづらいのでは、という印象を受けた。流れとしては、コミュニティ施策を行政は推進しないといけないが、行政そのものの機能というのは、充実は必要かもしれないが強化ということではないのでは、と感じた次第なので。

⇒そもそも市の計画であるので、あえて行政と表現するのか、ということもある。この計画を推進することが市の役割なので、推進機能の充実・強化などの方が適当かもしれない。

●コミュニティを如何に活性化するかで知恵を絞るということだが、段々やっていくうちにコミュニティにある程度の権限を移していくと、行政の役割がどのように変更し、どのようにやっていったらもう一つ上の段階に進んでいくのか。単にコミュニティの活性化だけでなく、行政そのものをある程度、コミュニティや市民が意見を出していく、今までは大事なことは行政がやっていた、そうではなく、住民が地域のにぎわいを作り出していく、その段階から少し次が変わってきている。そこを出して、マスタープランを含めて行政の役割分担がどのように変貌しているし、市民もそのような意見を入れるためには、行政そのものが今までやってきたものをどのように変えていくか、という流れがそろそろ出て来ても良いのではないかと、それを少し先取りした形での行政機能の在り方ということでここに表すと良いのではないかと、考えている。

⇒行革というよりも、コミュニティに視点を置いた書きの方が良いとは考えるが。

●マスタープランでこう持って行こうとしている、ということであれば、それに基づいた、簡素化する分は簡素化するし、強化する分は強化しなければならない。新たな成長のためにはこの部分に力を入れていく、そのような諸々を含めた分がコミュニティと一体となってやっていくと、コミュニティに対してそのような、市民も今後のまちの在り方はこうだと、ある程度の時代性を持った先を見越したやり方で、今までのように活性化のためにイベントをやったというだけでなく、もう一歩次の段階へ行くこと。

●マスタープランの中で、市の行政とコミュニティのあり方というのは規定されているのではないかと。当然、マスタープランとコミュニティ基本構想との整合性は図られなければならないが。ただし、マスタープランは策定中なので、ある程度進むともう少し明確になるのではないかと。

●従来のものと新しいものがあるが、それを踏まえて行政そのものがどういう風に変わっていくのか、今まさにコミュニティが進歩している、それに合わせて変わっていくということはある程度出していくと、こうなるのだということが分かる。

●行政がどう変わるかということは、きちんと詠われると思う。それをコミュニティの計画の中で強く出すのは如何かと思う。

●そうすることによってコミュニティの活性化のバックアップをする。コミュニティがこのような質的变化を遂げる、それをバックアップするために行政はどうなるかということを書く。

●現段階では骨子なので、そのような意見が出されたということで、事務局は承知いただきたい。

●参画条例では、10 年前のコミュニティの状態を前提に規定しているが、策定の中で参画条例との兼ね合いなど、議論になったか。

⇒参画条例に関する論議はなかった。

現時点では、条例の改正までは考えていない。

●条例そのものは、コミュニティに関してはブレーキに足を置いて作っている。第 1 次と第 2 次が変わってきたということならば、その流れの中で条例のコミュニティの部分も改めて議論する必要があるのではないか。

⇒策定を進める中で、条例に加えるべき点などが発生すれば、当然考えるべき。まだそこまでは至っていないが。

マスタープラン、市民活動推進プラン及び参画条例など、関連があるものは必ず整合を図りながら進めていく。

●今後、このような形で進めていくということで、了承とする。

(3) 平成 25 年度市民サービス協働化提案制度

「子どもの居場所づくり事業」中間報告について

担当課（子ども育成課）から、収支計画書の見直し、中高生の居場所事業の取組概況について説明。

提案団体（With Wind）から、実施状況について説明。

《質疑等》

●参加者が少ない回もあるが、毎回の参加者は同じ人になるか。

⇒同じ子も何人かいる。新しく友だちを連れてきたということもある。

●場所は、一部の地域か。

⇒学校は自由ヶ丘中学校や城山中学校、河東中など、ほぼ全域になる。玄海地区は少ないが。高校生はたまに一人二人くることがある。

メイトムの場所を青年のコミュニティと位置付けているようだ。青年達が努力をして、全部の中学校に毎月チラシを配るなど地道な努力があって、参加人数が 20 人近くになっている。アクセスの悪い場所で中学生がこれだけ集まるようになったことが素晴らしいことだと思うし、これからも広がってほしいと思う。同じ人ばかりでなく色んな人を連れてくるなど広がりが見えている。最初はコミュニケーションを取ることが難しいようだが、世話をする青年たちがどうすれば良いかが分かるようになって、新しい人たちの受け入れ方を学んでいる。

●時間が短くなっているようだが、長すぎるという感覚があったのか。また、最初から最後までいる子ども達が多いのかなど、現状を教えてほしい。

⇒部活を午前中して午後から参加という子ども達もいる。修了は 17 時としている。保護者が車で迎えにきたり、自転車を使ったり。暗くなる前に帰るようにと声掛けをしている。来た時に、何時に帰るのかということを書いてもらう。保護者が迎えに来る分には構わないが、遠方から自転車で来ている場合もあるので、気を付けて声掛けをしている。

●世話をしているスタッフの人数は。

⇒10 人。

●青年達が作成したチラシを持ってきていただくと良かった。半年の間に、主体的に関わる子ども達が増えてきたというのは、大切なことと思う。一度には難しいと思うが、来年度以降の方向性はいかがか。プラスアルファで考えていることはあるか。

⇒参加者が 2 人だった回があった。これは試験前だったため。これを踏まえ、勉強も可とするという意見も出ている。和室を勉強のためのスペースとして提供することも併せて考えている。

1 月の玄米餅つきでは JAM とプレーパークの一緒にの事業で、広い年齢層で関わりを持つことができた。中高生が力を発揮してくれた。そのような合同の企画も考えていきたい。中学生が自分からしたいというものを実現できるように、そのためには何が必要なのかということや青年達も悩んでいるが、悩みながら今のまちづくりには何が必要なのかということや、中学生たちが自分たちで動けるようになるように、ということや丁寧に進めていきたい。

●1 月のケースは、たまたま日にちが重なったのか。

⇒一度は合同のケースをつくりたいと考え、企画した。期待どおりの成果があがったと考えている。

反省点の中に、食べた後片付けをせずに場所を離れる子ども達もいた様子。スタッフみんなで話し合っ、みんなで一緒に片付けようと、みんなで話し合っ子ども達に伝えていた。

屋外事業も考えているようだ。許斐山登山や大運動会など。

●担当課の意向は。

⇒子ども基本条例に基づき、子どもの居場所づくりが不足している状況、コミュニケーションがとりづらい現状の中で、行政が子どもの育ちのために何かをしなければならぬということで始めた事業であるので、その中では思春期の中高生が集まっている、自分たちも悩みながら自分たちのコミュニティを作っている。色々と課題はあるが、大人は極力口を出さず、自主性に任せようと思っている。友達を誘って参加者も増えていることもあり、来年度以降の発展も期待できる。当課がコミュニティで行っている居場所づくり（小学生対象）とタイアップする形で、このような交流に発展できないかと期待している。

3、その他

(1) スモールオフィスの報告について

スモールオフィスの利用申請経過について報告。

11 ブース中 9 ブースを使用。空き分については、追加募集の予定。

《質疑等》

●使用期限は3年間か。

⇒原則として3年以内。それ以上の継続についても可能だが、料金が上乗せされる。

応募多数の場合は、3年未満のところが優先度が高くなる。

(2) 人づくりでまちづくり補助金、市民サービス協働化提案制度の報告会について

3月20日に開催予定。改めて連絡するので、参加をお願いします。

(3) 社会教育委員研修会について

報告書が届いたので配布する。

来年度は、宗像地区が担当になる。

(4) 市民活動交流まつりについて

開催の案内。

= 散 会 =